

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301180		
法人名	社会福祉法人 総社保育園		
事業所名	グループホーム国府の里1		
所在地	岡山県津山市総社34-1		
自己評価作成日	令和4年2月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokkensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?act=on_koukyuu_detail_022_kanri%26j_gyosyoCd=3370301180-00&amp;ServiceCd=320&amp;type=search">https://www.kaisokkensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?act=on_koukyuu_detail_022_kanri%26j_gyosyoCd=3370301180-00&amp;ServiceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7
訪問調査日	令和4年7月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、装飾や作品作り壁面作りを一緒に行い四季を感じている。自分らしく、出来る家事、朝の掃除、野菜作り、野菜収穫、調理、盛りつけ、洗い物、洗濯干し、たみなどをして頂き、生きた甲斐を持って暮らして頂いています。誕生日は好物でお祝いし、食事も喜ばれています。クリスマス会、節分、ひな祭りなど季節の行事を楽しんでおります。利用者様がお元気に笑顔で過ごして下さる事が職員にとって喜びで、ホームでの生活が楽しいものになるよう、職員一同がんばっております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「楽しく自分らしく暮らせるように側にいます」掲げ、利用者が不快な思いをしないような声掛け、対応に配慮している。この考えは管理者だけではなく職員全員が同じ思いだった。また、利用者一人ひとりが個々のペースで楽しく自分らしく暮らせるよう支援出来ている。在宅時から散歩が趣味の利用者が居た。情報を知り、雨天以外は職員で協力しながら、毎日散歩に出かけている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を廊下・事務所に掲示し、毎朝の申し送り時に理念を声に出して読んでいる。職員全員で理念を基にサービスを提供する事としている。	理念に「楽しく、自分らしく暮らせるように側にいます」を掲げ、実践に努めている。利用者が毎日の散歩等望むことを職員同士協力しながら実現している。利用者からは、「ここに来て良かった。毎日が楽しい」と言ってもらえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	近所を散歩しお出かけ先の方との挨拶を大切にしている。地域の方の花の差し入れも時々あり、回覧板も回っており、地域の清掃作業に参加し交流を深めている。	コロナ禍になる前は、同法人の保育園児が毎月訪問し、歌を披露してくれていたが現在は中止している。しかし、保育園児が散歩途中に覗いてくれるのを利用者は楽しみにしている。町内会に加入し、清掃や廃品回収に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が開催出来ず、地域の方に来所して頂く機会がなかったが、地域の清掃作業に参加し、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症拡大防止の為、開催出来ていないが、行事や日常生活、感染症対策を報告し、ご家族の要望を伺いサービス向上に努めている。	町内会長、老人会、訪問看護、園長、市の担当者、利用者、家族に参加してもらい開催していたが、現在は書面での開催となっている。行事や研修等の報告書を委員に渡し、事業所の取り組みの理解を図っている。	委員に対して報告書の意見等を記載してもらった資料を添付し、更なる事業所の取り組みの理解を深めて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村より郵便物やメールにて情報提供がある。	市の担当者とは、メールや電話、FAXでのやり取りをしている。出来るだけ書類等は持参している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で勉強会や申し送りやミーティング等で資料を元に話し合っている。	自分らしく思うように暮らして欲しいとの考えが根底にある為、身体拘束をする必要がない。毎月購入している介護の情報誌に身体拘束に関する内容が掲載されているので、それを参考に研修も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し内部研修やミーティングで勉強会をしている。また、職員がストレスを溜めないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人を活用している方がおられた。職員が理解出来るように、情報伝達や勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書の内容を時間を取って頂き説明し、同意を得ている。また、内容に変更がある時は、その都度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時、意見・要望を尋ねている。市の相談員は、感染症拡大防止の為、休止としている。	面会や電話で意見を聞いている。また、介護計画作成時にも要望を記載してもらっている。運動量を増やして欲しい等の希望があれば、目標に掲げている。夜間眠れず朝起きれない利用者も居るので、朝食時間をずらして食べてもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、毎日の申し送り、運営に関する意見交換を行ったり、管理者が職員に意見や提案を求め、反映させている。	理念にも「仲良くお互いが支え合えるよう側にいます」と掲げ、何でも相談しやすい環境づくりに努めている。職員ヒヤリングで、両管理者とも何でも言いやすいと教えてもらった。隣のユニットを手伝うこともあるので、そこで良かった点を提案することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部と管理者が管理者会議を行い、随時報告・相談・意見交換をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を勧め、研修を受けるよう配慮している。介護経験の少ない職員には疑問や不安を解消できるよう努めている。各自の向上心と質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流があり、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学・入所面接時に、ご家族や関係職員のお話やご本人の要望を伺ったり、生活状態・生活歴を把握していき、少しでも早く慣れて頂くための必要なケアを行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	抱えている問題、困っている事を伺い、ご家族の思いを受け止め、どのようにケアしていく事がご本人ご家族にとって良いか話し合い、良い関係作りが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いや、状況を確認している。環境の変化による不安を軽減し出来る事をして頂き出来ない事を支援し職員が統一したサービス提供を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域の伝統、昔からの知恵や子育てのアドバイスを教えて頂いたり、野菜や花作り・家事を一緒にしている。利用者様と職員がお互いにして頂いたことの感謝を言葉に表し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告を頻繁に行い、信頼関係を築き、ご本人の状態の把握をして頂いて、パイプ役になれるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方とご本人が直接電話で話をして頂き関係が途切れないよう支援に努めている。	面会制限の中、日頃の様子を把握してもらう為、色々な場面の様子を撮影した複数枚の写真を郵送している。家族が利用者の落ち着いた様子に安心され、日課の散歩コースと一緒に歩き、利用者が「また来てくれ」と言えば、家族も「分かった」と答え、良好な関係を築くことができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活面で支え合い、気遣いが出来るよう努めている。利用者様同士のトラブル時、職員が仲立ちを行い、場の雰囲気や和ませるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際にはアルバムや作品集をお渡ししている。入院されたり、他施設に入所された方にも、ご家族と連絡を取る機会があれば、現在の状況を伺って、ご家族からの相談にも対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを伝えにくい方には、表情を読みとったり、自己選択して答えがもらえるよう声かけの工夫をする。日々の関わりの中で利用者様の立場に立って、思いをくみ取るよう努めている。	利用者からの要望は、笑顔で気持ち良く対応しているので、気軽に何でも言ってもらえる関係性ができている。職員の役に立ちたいと、毎日廊下の雑巾がけをしてくれていたが、負担が多くなったため、手すりなど負荷が掛からない手伝いに変更してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時面接にお伺いしたり、ご家族にライフタイムストーリー用紙に記入して頂いている。またコミュニケーションの中で生活状態・生活歴・生活環境を伺い、知り得たことを職員全体で共有し、ケアに生かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、その日の状態により、その人らしく生活して頂く為に、その人全体の把握に努め、それを職員全体で共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中なかで、要望や思いを伺ったり、して頂いてとても喜ばれたこと等を、介護計画に反映させるよう、関係者で話し合い、モニタリングを行い、介護計画を作成している。	介護計画は、半年毎に見直しをしている。日頃の関わりの中で、利用者に変化があれば、毎日の申し送り時に情報を共有し、次回作成時の参考にしている。家族には、介護計画書に要望欄を設け記載してもらい、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を、時系列でご本人の発した言葉を交え、個々に記録し、特に変化があるときは、随時カンファレンスを行い、個々の介護経過と申し送りノートに記入し、口頭でも伝え情報の共有を行い、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて、希望・要望には柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容サービスを活用している。保育園児がホームまでだんじり祭りに来てくれる事が有り、利用者様の笑顔も見られ元気をもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医となっており、受診はご家族に依頼しているが、緊急時やご家族の都合がつかないときは受診支援を行っている。	入居時に、月2回の往診、土日祝日、夜間も対応してくれる協力病院を案内すると、ほとんどの家族が変更をしている。急な体調不良も対応してくれるので、医療面は安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来所し、健康管理・相談・指示を受けている。緊急時等に電話相談し、適切な対応が出来るようにしたり、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書にて情報提供を行い、面会時に病院関係者との情報交換に努めている。ご家族には電話連絡や面会時に情報交換を行っている。また退院時には相談員・看護師等から情報提供を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ホームで対応できるケアを説明し、同意を得ているが、必要があるときは、その都度話し合い、より良い方法を見つけるよう支援している。	継続的な医療行為が出来ない為、看取り支援は難しいが、利用者と家族が望み、医療行為が必要であれば可能な限り事業所で暮らしてもらっている。利用者にとって一番良いと思う支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、対応経験者の話や実際に起こった事例を元にミーティング等で、随時確認している。緊急時メモを作成したり、個別に受診時ファイルを作り、緊急時に情報提供しやすいように準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練(様々な想定)を行っており、避難方法等を話し合っている。近隣の椿寿荘、保育園、GH総社とも協力関係が出来ている。	年に2回地震想定も含めて避難訓練を実施している。運営推進会議の際、町内の人にも協力依頼をしている。直ぐ近くに住む町内会長も、事業所の事を気にかけてくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊厳を持って対応し、プライバシーの尊重に努め、プライドを損ねないような対応を心掛けている。	虐待に繋がるような、言葉掛けや対応をしないよう心掛けている。排泄介助の時、傍らで声を掛け、他の利用者に気づかれないように交換をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多くするよう心掛け、ご本人の思いを聞き出し利用者様に寄り添い、自己決定出来るような声かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など基本的な1日の流れは決まっているが、その方のペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。その日の体調に配慮しながら、ご本人の気持ちを尊重し、希望を尋ねながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時候に合った衣類の中で、好みの物を着用され、おしゃれを楽しんで頂いている。乱れや汚れがある時はさりげなく対応し、衣服の状態管理を行い、破れ・サイズ変更等をご家族に伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食物や行事食等、共に考え、下準備、盛りつけ等一緒にしている。個々の状態に合わせ、飲み込みにくい方には、刻みなど形態を変えている。誕生日にはご本人の好物を提供している。	在宅時に好きな物を好きな時に食べる事が出来ていたため、継続支援をしたいと考え実施している。あんぱんが食べたいと言われれば、おやつに提供している。また、抹茶を飲みたいと言われれば、和菓子も購入し対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を立て、個々に有った食事量、形態に配慮している。水分量を把握し、摂取しにくい方には好きな飲みやすい飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて出来る方、介助が必要な方など、その方にあつた口腔ケアをしている。義歯洗浄も行っている。歯科医師往診で義歯が合わない方には、義歯調整、治療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、プライバシーに配慮した声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄を促すようにしている。また、パットや紙パンツの種類も、個々に対応している。	パットの使用回数を少しでも減らせるよう、その人に合ったパットを職員で相談しながら検討している。トイレに行ってもパットを触るなどして排尿に集中できなかった場合は、また時間をおいて誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を勧め、バランスのとれた食事を提供し、運動に心がけている。排便チェック表により、オリゴ糖を使用し自然排便を促している。場合によっては訪問看護師に適切な処置を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調と希望により、対応している。拒否の続方方には言葉掛け、対応の工夫によって一人一人に合わせた入浴支援を行っている。お風呂が楽しみな方が多く、気持ち良かったと喜んで下さっている。	体調面など入浴を希望しない場合以外は、毎日入浴支援をしている。人それぞれ温度の好みも違うため、その都度確認してもらっている。利用者に来る事はしてもらい、さりげなく介助をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、なるべく活動して頂き、生活リズムを整えるよう努めている。個々に合わせて温度や、照明の調節を行っている。夜間の不眠時にはその都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴、病気、服用薬の把握に努め、錠剤が服薬しにくい方には粉薬、とろみをつけ服薬しやすくしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備・花・野菜の世話、洗濯干し・洗濯たたみ・テーブル拭き・拭き掃除等、出来ることをして頂き、毎回感謝を伝えている。ぬりえ・絵合わせ・カルタ・歌等、好みのことがそれぞれ出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日に時々近所の保育園や公園、寺社に行ったり、ドライブに出かけたりしている。	気候が良い日は、近隣を散歩している。在宅時、散歩が趣味だったと入居時に情報を得た為、天候が悪い日以外は毎日散歩に出かけている。熱中症対策として、日差しが弱い朝か夕方の時間帯に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として、事務所で預かり、ご本人の欲しい物、クイズ本、ノート、化粧品、日用品など、購入している。ご本人、ご家族の希望に添えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状が書けるよう準備しており、娘様に手紙を書き写真を添えて出している方もおられる。電話も一人一人の状態と、ご家族に負担のならないように配慮して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期にあった壁面を一緒に作成し飾っている。最近の写真をアルバムにして来訪者に見て頂いている。また、ご家族より、パッチワーク等を提供して頂いており、季節が感じられたり、家庭的な雰囲気の共用空間となるようにし、清潔感も保つようにしている。	玄関前にプランターを置き、季節の花を植え利用者に交代で水やりをしてもらっている。職員と利用者の体感温度が違うため、「寒いですか」と確認しながら温度調整をしている。感染対策として換気を行い、空気清浄機を置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が落ち着ける場所が決まっており、利用者様同士の馴染みの関係ができ、テレビを見ながら楽しく雑談されている。時には移動して会話を楽しませている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や作品等を飾ったり、使用されていた家具・家電・寝具を置かれ、独自の居室が出来ている。居室前の名札は、入所時に自書して頂いている。	使い慣れた家具等を持ち込んでもらい、使いやすいように配置している。利用者の身体状態に合わせて居室内の配置を移動しやすいよう工夫した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室等は、理解して頂けるよう大きな字で案内している。状態の変化が見られた時はミーティング等で話し合い、自立支援に繋ぐことが出来るようにしている。		